

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890101219
法人名	医療法人 さくら会
事業所名	グループホーム持田のいえ
所在地	松山市持田町4丁目7番9号
自己評価作成日	平成28年7月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

医療機関が母体であり、職員は看護師・准看護師の資格保有者も多く、日々の健康管理や体調不良時には早期に対応が出来、ご家族には安心できるとの声を頂いています。松山の中心地に近く、散歩や外出の場が多いのも魅力の一つです。地域の方も行事事に熱心で、納涼祭や文化祭等には参加させていただいています。イベントはご利用者・ご家族・近隣の方が触れ合える貴重な機会なので大切にしています。食事は栄養士がバランスやカロリー等を考えた献立になっており、国産や旬の物にこだわっており美味しいと好評をいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体が医療機関であることが、利用者家族の安心感につながっている。又、看護資格を有する管理者が状態変化等に気づき、母体医療機関とやりとり等して、早期発見につながっている。受診は職員が同行しており、専門医の受診は家族と協力し合って支援している。事業所は、地域資源の豊富な地区に立地しており、頻繁に回転寿司や焼き肉、喫茶店等に出かけたり、希望でデパート等にも出かけられるよう支援している。法人栄養士が立てた献立に沿って、週に4日ほどは調理専門職員が2ユニット分の昼、夕食を作っている。その他は職員が作っている。国内産の食材と、魚や肉も新鮮な物を仕入れて使用している。時々、利用者もはやしの根とりを行ったり、洗い物を行うことがある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホーム持田のいえ

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 岩国 月江

評価完了日 H28年 7月 10日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は毎朝唱和し、実践につなげるよう努力している。	
			(外部評価) 法人の「やさしい医療 やさしい介護」の理念をもとに、開設時に法人代表者と管理者等で『安心して』『尊厳を守られ』『住み慣れた町に継続して』生活できる上質な場とサービスの提供をめざします。」と理念を作り、居間からも見える職員事務室の壁に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 文化祭や納涼祭など地域の行事にはなるべく参加している。不定期ではあるが、ボランティアや家族による茶話会や手芸を行なっている。	
			(外部評価) 地区の行事に参加して、地域の方達と交流している。文化祭の折りには、事業所からも作品を出展した。地域のボランティアの協力を得て、併設小規模多機能事業所と一緒に姫だるま作りを行った。12月には、近所の保育園から園児が来て歌を披露してくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の会合に参加させてもらったり地域の公園に散歩に出掛けるなど地域の方と交流できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 理事長、利用者、家族、市役所、地域包括センター、有識者、民生委員の方々に参加していただき、要望等意見交換を行い、サービス向上に努めている。	
			(外部評価) 会議は、併設小規模多機能事業所と合同で行っており、民生委員や地域の方、家族が参加している。事業所からは、利用者や活動について報告して、参加者に要望や助言を聞いている。家族から「少しでも体を動かす機会があればいい」という希望があったことをきっかけに、ラジオ体操等を行う時間を設けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 包括センターとは利用者の相談等徐々に関係を築けているが市町村との協力関係には努力が必要である。	
			(外部評価) 市の担当者は、運営推進会議に参加して感染症の情報提供や注意起等を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてはマニュアルも活用し、ミーティング等で話し合い徹底している。必要時には十分説明し、同意のもとで最低限に行なうこととしているが、代替案はないか話し合い、身体拘束をおこ庵和内容取り組んでいる。玄関の施錠については、建物の内側のみ行っておりご理解頂いている。	
			(外部評価) 管理者は、「ベッド柵や安全ベルト等の身体拘束を行わない」ことを大切に考えており、家族や職員に話している。玄関は自動ドアになっており、出入りが自由になっているが、ユニット入口は施錠しており、職員が暗証番号で解錠できるようになっている。早朝、利用者の行方不明があったことを機に、GPSの活用や徘徊マニュアルの整備等を予定している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての勉強会に参加し、フィードバック等で全職員が理解するように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度のマニュアルは、いつでも閲覧できるようにしている。包括センターや司法書士ともこまめに連絡を取るよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約や変更時には十分説明し、納得の上行っている。家族の不安や疑問を払拭できるよう話し合い、要望等を聞き、サービス向上に反映できるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者との日々の交流の中で希望や要望を把握するよう努めている。話しやすい雰囲気作りを心がけ、家族にも希望を聞くようにしている。運営推進会議でも意見を取り入れ、話し合いを行い、家族や利用者の意見を反映できるよう努めている。 (外部評価) 利用者に変化があれば電話で報告しており、場合によっては、衣類等を持参してもらえよう伝え、家族が来訪する機会を作っている。又、家族の方から「どうしていますか」と電話が掛かることもある。昨秋には1回のみ事業所新聞を発行した。現在、面会時間は10時～19時となっている。	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、報告に取り組んでほしい。又、家族がサービスについて意見や要望を気軽に表わせる機会や雰囲気作りに努力してほしい。そのような取り組みを通じて、家族とのさらなる信頼関係を作っていくことが期待される。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営に関して職員の意見、提案を話し合う場を設け努力している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>現在は、2ユニットで職員が勤務をローテーションしている。職員が集まり話し合うような機会は少なく、管理者や計画作成担当者が個々に聞き取っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>話を聞く機会を設け、意見が反映できるよう環境づくりに努めている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員一人ひとりの力量を理解し研修に参加する機会を設けている。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員が同業者と勉強会や訪問を通して交流する機会を増やし、サービスの質をより良く出来るよう努めている</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>見学の段階で本人の状態をじっくりと聞くよう努めている。本人の要望や困っていることに耳を傾け、希望があれば取り入れ、本人が安心して快適に過ごせる環境づくりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族と話し合い要望や困っていることなど、じっくり話を聞くよう心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の状況を把握し、支援を見極めるよう努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個人の立場や価値観を尊重し、出来ることを本人にして頂き、お互いに意見を言い合える関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時に本人の最近の状況をお伝えし、要望があれば職員で話し合う。家族と職員の認識を一致させ、本人を支えるよう家族との関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人と馴染みの人との関係が崩れないよう面会があった時に情報を共有している。 (外部評価) 友人と文通したり、俳句を投稿する方には、郵便物の投函をサポートしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 各利用者の性格や相性を把握した上で、配席を工夫したり、会話を促している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 特段の取組みはないが、サービス利用が終了したご家族からの相談には十分に応じるよう退所時には伝えている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各利用者の言動や表情から思いや希望を把握するよう努めている。また、家族からも話を聞くことで情報を補うようにしている。 (外部評価) 入居時には、家族にこれまでの生活歴等を聞き、フェースシートにまとめている。時に、「したいことある?」と聞き、数名で外出する等して支援している。「居室で過ごす時間が長い利用者とのかかわりが少ない」と感じている職員もいた。	記録物を活かして一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に取り組んでほしい。意向を表わすことが難しい利用者についても、思いや意向を探るような取り組みをすすめてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 可能な範囲で以前入所されていた施設の関係者から話を聞くようにしている。また、家族を通じての情報収集も随時行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各利用者の生活のリズムや能力を把握し、必要な支援を行うよう努めている。リズムを崩さないよう可能な限り利用者のペースも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			日々の申し送りの中で出た意見等を集約、スタッフで共有し、各利用者の現状に合った介護を実践するよう努めている。	
			(外部評価)	
			計画作成担当者が、家族に電話等して要望を聞き、職員には口頭で意見を聞いて介護計画を作成している。計画は、毎月モニタリングを行い、6ヶ月ごとに見直しを行っている。現在、計画はファイルしているが、職員が内容を確認することは少ない。	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有できるような仕組みを作してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			各利用者の日々の行動や体調などを観察記録に記入し、スタッフ間での情報共有に努めるとともに、日々の介護に活かすようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			各利用者個別の事情や家族からの希望に応じて、可能な範囲で柔軟な対応をとるようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域の幼稚園や小学校から園児・児童の訪問を受け、交流行事を行っている。また、地域から趣味のボランティアを招き、ご指導を頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居した際、本人及び家族の希望に添って、かかりつけ医を決めてもらっている。医療機関と利用者の状態を共有し、体調不良時には指示を仰いでいる。	
			(外部評価) 母体が医療機関であることが利用者家族の安心感につながっている。又、看護資格を有する管理者が状態変化等に気付き、母体医療機関とやりとり等して、早期発見につながっている。受診は職員が同行しており、専門医の受診は家族と協力し合って支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員や訪問看護師等と情報を交換し、利用者が快適に適切な看護や受診を受けられるようにしている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 早期に退院できるように病院関係者との情報を交換し、家族や本人の希望も伝えている。面会にも赴き関係を築くよう努めている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居した時から本人・家族等と話し合いを行っている。	
			(外部評価) 入居時に家族に要望を聞いており、現在は半数ほどの方が事業所で最期まで暮らし続けることを希望している。状態変化があればその都度、医師、家族と話し合い、方針を決めている。この一年の間には、看取り支援を行った事例がある。支援時、希望があれば家族は事業所に泊まることができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			事故発生時や急変時にはどうすべきか指導を受けている。実践力がつくよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			避難訓練を一年間に2回行っている。地域にも訓練に参加してもらうよう呼びかけている。	
			(外部評価)	
			3月には日中の火災を想定した避難訓練を実施した。事業所玄関前の駐車場が一時避難場所となっており、歩行できる利用者は避難した。運営推進会議時には、メンバーの方にいざという時の協力をお願いしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			言葉使いには十分配慮し、訪室時には必ずノックする事を徹底し、誇りやプライバシーを傷つけないよう気を付けている。	
			(外部評価)	
			開設時から接遇についての研修を3回行い、すべての職員が勉強できるよう取り組んだ。利用者に対して「ちょっと待って」と言ってしまうこともあり、職員は「利用者が不満に思っているのではないかと」感じている。職員の言動については、利用者や家族の立場で視ると、配慮が必要と感じるような場面がある。	管理者は、さらに認知症についての勉強が必要と感じている。職員の利用者への対応や言葉かけについては、職員個々が自分自身で気付き、改善できるような仕組み作りが期待される。利用者や家族との信頼関係作りに力を入れて取り組んでほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			利用者の意見を聞き、行動するよう心がけている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	利用者のペースに合わせ時間がかかっても自分でできることは自分でしてもらうようにしている。希望があれば可能な限り希望にそって行っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	個々のおしゃれを把握し、一緒に服を選んだりする時間を作っている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	簡単な下準備や食器洗い、テーブル拭き等を手伝ってもらっている。
			(外部評価)	法人栄養士が立てた献立に沿って、週に4日ほどは調理専門職員が2ユニット分の昼、夕食を作っている。その他は職員が作っている。国内産の食材と、魚や肉も新鮮な物を仕入れて使用している。時々、利用者はもやしの根とりを行ったり、洗い物を行うことがある。さらに、利用者のできることやできそうなことを発揮できるような場面づくりに取り組んではどうだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	病気を把握し個々にあわせ、カロリー・糖分・塩分に気を付けて調理している。状態に合わせて食事形態にも配慮している。水分が不足しないようにこまめに声かけすることはもちろん、ゼリーにして対応するなど十分に水分摂取できるよう努めている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	食後は口腔ケアを徹底し、うがいの出来ない方にはスポンジを利用するなど本人に適した方法でケアしている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はなるべくトイレでの排泄を促している。こまめに声掛けし排泄のパターンの把握に努めている。	
			(外部評価) 調査訪問時、職員は、利用者の耳元で「先に行く？」と声掛けしてからトイレまで付き添っていた。居室には排泄用品を常備しており、必要時にトイレまで持参するようになっている。トイレに数回分ストックしておく場合もある。以前、移動時に転倒したことのある利用者には、居室のベッド横にポータブルトイレを設置していた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜を多く取り入れたり、牛乳やヨーグルトなどの乳製品を個々に摂取してもらっている。便秘気味の利用者にはトイレに座る時間を設けたり、お茶のゼリーを摂取してもらうなど工夫している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 可能な限り希望を聞き、体調や気分を考慮し、入浴してもらっている。入浴時には会話を促しコミュニケーションをとりながら楽しく入浴できるよう支援している。	
			(外部評価) 1階ユニットには機械浴、2階は一般家庭用の浴槽を設置している。週に2回程度、午後から入浴を支援している。リクライニングできるイスを使ってシャワー浴を支援しているケースがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 「光」「音」などの配慮し、天日干しや洗濯等で寝具を清潔に保ち、気持ちよく休息できるよう支援をしている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬チェック表を活用している。個々の薬についても把握するよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 決まった時間以外に利用者によってコーヒーやおやつを提供している。散歩やレクなど気分転換できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調に問題がない時は家族や友人からの外出の申し出には対応している。施設も可能な限り外出や外食等の実施をしている。	
			(外部評価) 居室に帽子を置いており、かぶって散歩に行く方がある。夏場は昼間を避けて支援している。事業所は、地域資源の豊富な地区に立地しており、頻繁に回転寿司や焼き肉、喫茶店等に出かけたり、希望でデパート等にも出かけられるよう支援している。さらに今後は、家族と相談しながら、利用者にとって懐かしい場所や思い出の場所等にも出かけてみてはどうだろうか。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 紛失のリスクもご家族にご理解してもらったうえで、少額のご自分で持っているご利用者もいるので、買い物や外出時にはご自分で使えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の意向で携帯電話を持っておられるご利用者もおられ、電話で話す事もあり、操作が分からなくなったりすることもあるので見守りや支援を行なっている。郵便物がある場合には手渡ししている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	居室等の電気や温度調節には気を付けている。家族の写真を飾ったり、利用者に合った居室づくりを行っている。季節感がわかるよう、花を生けたりしている。	
			(外部評価)	共用空間は掃除が行き届き、採光と照明で明るい空間となっている。テレビに向かってソファを配置しているが、テレビの前は通路になっている。テーブル席は縦に並べ使用しており、それぞれに決まった席がある。七夕飾りをしているユニットや、外出時の写真を掲示しているユニットがあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	ホールにソファ等を置き、くつろげるようにしている。	
			(外部評価)		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	利用者や家族から要望がある時は意見を取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価)	職員が掃除を行っている。昼食後は横になって休む利用者も多い。電子ピアノを持ち込んでいる方は、ピアノの前にご主人の写真を飾っており、好きな時に弾いている。寝たきりの方は、扉を開放して居間の様子が見えるようにしていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	手すり等を取り付けたりして安全で自立した生活が送れるように努めている。	
			(外部評価)		